

1♂、兵庫県西宮市門戸岡田町9。Ⅷ。1988、田中稔採集、

阪急電鉄今津線の門戸厄神駅附近の道路上に静止していたものを採集した。本種の採集は、私は西宮市では初めてである。

芦屋市におけるヨツボシナガツツハムシの記録について

西 隆 広

本誌第16巻1号で高橋寿郎氏が発表されたヨツボシナガツツハムシ *Clytra arida* Weise の報告¹⁾に接し、この美しいハムシは私も確かに採集したことがある、と思って標本を調べてみると1頭あったので高橋氏に御連絡した。²⁾ ただ、データをお伝えしていなかったのもので、そのデータを①に示す。

ところで高橋氏の報告によれば、本種は日本海側の豊岡市の例を除いて、概ね標高400m以上の地域で記録されているということである。一方①の採集地である城山（国土地理院発行の地形図では「鷹尾山」と記されている。しかし、一般には「城山」と呼ばれている）は標高263mで400mより100m以上低い。豊岡市の例³⁾もあるが、瀬戸内側での生息標高の資料となると考え、本年（1988年）、発生期と思われる6月に2度程、同山城を調査したが、再発見できなかった。

②は芦屋市教育研究所指導主事の古市景一氏の採集によるもので、城山では現在も生息していることが充分考えられ、来年以後も調査していく予定である。

③は芦屋川に沿った谷筋の登山道での記録である。当日は、石宝殿方面を訪れての帰途、芦屋川本流沿いの登山道へ入る付近（標高460m）で飛翔中の本種を1頭採集、以後注意深くハギ類を中心に調べた結果、距離約850mの間（標高460m～380m）の間で計6頭を得た。飛翔中の1頭を除きすべてハギから得た。その中でハギの葉を摂食していたのは2頭であった。また1頭はシマサシガメにとらえられていたもので、採集時には死んでいた。

ハギの葉上等で採集した本種は1株1頭で、隣接するハギに1頭ずつの例はあったが、2頭以上はなかった。

同地には8月20日に再度出かけたが、成虫出現期を過ぎたものか、1頭も見ることができなかった。

参考資料²⁾で報告されている Mt. Rokko, Okuike は芦屋市の奥地とすると、同地は芦屋川流域内である。従って本種は芦屋川上流域にいくつかの生息地をもっていると考えられる。

末筆ではありますが、貴重なデータの提供をいただいた古市景一氏に深甚なる謝意を表します。

<本種記録>

- ① 1 ex., 24. VI. 1984 芦屋市城山 , 西 隆広
- ② 1 ex., 4. VI. 1985 芦屋市城山 , 古市景一
- ③ 6 exs., 3. VII. 1988 芦屋市芦屋川上流 , 西 隆広

<参考文献>

- 1) 高橋寿郎、ヨツボシナガツツハムシ六甲山系逢山峽に産す：きべりはむし、第16巻第1号
- 2) 高橋寿郎、ナガツツハムシ2種の記録：きべりはむし、第16巻第2号

神崎町の昆虫4種

森 田 真 澄

神崎郡神崎町福本において県下での文献記録が少ないと思われる昆虫を採集しているので報告する。

◎トゲナナフシ *Neohirasea japonica* Haan

1 ♀, 19—IX—1987。1 ♀, 23—VIII—1988。1 ♀, 1—XII—1988。

山道や空地の体色と類似した色彩の地面にはほとんど動作することなくいることが多い。ある虫好きの高校生からの伝聞ではあるが、神崎町岩屋にも棲息するらしい。

◎ツシマクロスジヘビトンボ *Parachauliodes continentalis* Van Der Weele 1 ex., 13—VI—1988。
燈火採集。

◎ヘビトンボ *Protohermes grandis* Thunberg

1 ex, 10—VIII—1987。燈火採集。

普通種であろうが当地ではあまり見ない。市川町屋形在住の老婦人によると、本種幼虫をカワムカデと呼ぶそうである。

◎ダイセンコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber daisen* Miyake et Tsuji

1 ♂, 1—V—1987。ヤマザクラの大木の根際にいた。亜種 *daisen* の特徴が亜種 *gibber* の特徴より顕著に現れているので亜種 *daisen* とした。